

平成28年度

自己点検 自己評価報告書

平成30年2月

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校

平成28年度

自己点検・自己評価報告書 目次

表紙

平成28年度自己点検・自己評価について

- 自己評価項目
- (A) 教育理念・目的・人材育成像
 - (B) 学校運営
 - (C) 教育活動
 - (D) 生徒指導等
 - (E) 学修成果
 - (F) 生徒・学生支援
 - (G) 教育環境
 - (H) 生徒・学生募集
 - (I) 財務
 - (J) 法令等の遵守
 - (K) 社会貢献・地域貢献
 - (L) 国際交流

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校

平成28年度自己点検・自己評価について

本校では、平成25年度に文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に自己評価に取り組み、教職員が本校の理念、目標に照らして自らの教育活動を評価し、改善することによって、職業教育の質の補償・向上に組織的に取り組みました。また、平成27年3月に文部科学省における職業実践専門課程の認定を受け、平成26年度に自己点検・自己評価を行い、更なる企業等との連携を深め職業教育の充実を図るとともに、平成28年度も実施致しました。

1 対象期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

2 実施方法

学内に「自己点検・自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に実施しております。

「自己点検・自己評価委員会」

委員長 角堀雅信校長

委員 早川昌幸進路指導部長

花野雅彦広報推進部長

服部幸弘事務長

3 自己評価項目

自己評価は、以下の12項目について実施しています。

- (A) 教育理念・目的・人材育成
- (B) 学校運営
- (C) 教育活動
- (D) 生徒指導等
- (E) 学修成果
- (F) 生徒・学生支援
- (G) 教育環境
- (H) 生徒・学生募集
- (I) 財務
- (J) 法令等の遵守
- (K) 社会貢献・地域貢献
- (L) 国際交流

4 評価項目に対する評価

評価は、1～4の点数で記載しております。

4：適切 3：やや適切 2；やや不適切 1：不適切

A、教育理念・目的・人材育成像		評価点
A-1	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界保護者等に周知されているか	4
A-2	各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

A-1		評価点
現状認知・評価等 とその根拠	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界保護者等に周知されているか	4
	学校の教育理念、目的、育成人材像、特色、将来構造については、学生保護者にはオープンキャンパス等の講習会、入学式及び保護者通信等で周知されている。業界関係者等には、毎年開催されるオーナー研修会等で挨拶において周知されている。	
	今後の課題とその解決方法	
参考資料		
A-2	各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	評価点
現状認知・評価等 とその根拠	業界のニーズを発掘する場所として「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」における委員の方々からの意見を取り入れ、本校の「カリキュラム編成委員会」において、業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っている。	4
	今後の課題とその解決方法	
	参考資料	
	業界のニーズの変化に対応するためには、ニーズに沿った教育課程の編成を迅速にすることが重要である。その為には、業界、他校の情報収集を図るような取組みが必要である。	
	シラバス、年間カリキュラム表	

B、学校運営		評価点
B-1	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	4
B-2	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

B-1		評価点
現状認知・評価等 とその根拠	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画は策定されている。事業計画においては、年度初めの全職員会議の場において教職員全員に周知している。事業計画に基づいて各部署、各個人において目標を立てている。目標については、個人面談等で進捗状況を確認している。	4
	事業計画に沿った目標意識は向上しつつある。今後は更なる理解と目標遂行に向けてのスキルアップが必要である。	
	事業計画書	
今後の課題とその解決方法		
参考資料		
B-2		評価点
現状認知・評価等 とその根拠	情報システム化等による業務の効率化が図られているかについては、学籍、成績、欠席の管理システム、入学希望者管理システム、就職先企業管理システムがあり、それぞれのネットワークは情報セキュリティの理由でアクセス権を区分している。セキュリティの強化も行われた。	4
	コンピュター業界は日進月歩であり、更なるセキュリティの強化が必要である。	
今後の課題とその解決方法		
参考資料		

C、教育活動		評価点
C-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
C-2	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

C-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	評価点	
現状認知・評価等 と その根拠	教育課程編成委員会を開催し委員からの意見を参考に、毎年、教育課程の編成を行っている。	4	
	各学科においては、実習カリキュラムに重点をおいた編成となりつつある。		
	業界のニーズに沿った人材育成のカリキュラムも導入している。		
今後の課題とその 解決方法	「教育課程編成委員会」「カリキュラム編成委員会」等を中心にした高度の教育課程の編成が望まれる。		
参考資料	教育課程編成委員会議事録		
C-2	職員の能力開発のための研修等が行われているか	評価点	
現状認知・評価等 と その根拠	教員研修においては、生徒指導の研修を「TCI研修」、実技習得の研修は業界人における研修を実施している。「TCI研修」年6回の研修を実施した。実技に関する研修は各学科において個別に開催を実施した。また、月に1回開催される「教員会」において学生指導に対する意識の統一を図っている。	4	
	今後の課題とその 解決方法		研修においては、マンネリ化の無いように新たな研修の導入も必要である。 また、多様に化する社会・業界の現状に対応できるような研修も考えていく必要がある。
	参考資料		「TCI研修資料」

D, 生徒指導等		評価点
D-1	基本的な生活習慣の確立の為に取組が行われているか	4
D-2	生徒の安全管理の為に取組が行われているか	4

D-1		評価点
現状認知・評価等 とその根拠	毎年度実施している新年度合宿のオリエンテーションの場において、各担任より基本的な生活習慣の指導や、学生個人ごとに年間を通しての目標設定を掲げて取り組んでいる。また、クラス担任より朝のSTにおいて学生の状況把握と適切な指導をしている。	4
	オリエンテーションの充実、学生の対応については学科長をはじめ学校全体で情報を共有していく必要がある。	
今後の課題とその解決方法	オリエンテーション合宿の資料、出席簿、週間報告書	
参考資料		
D-2		評価点
現状認知・評価等 とその根拠	防災体制は構築されている。施設の点検も専門業者に委託し安全性を確立している。	4
	防災訓練についても毎年実施している。遠方からの学生が多いことから、民間の学生寮や信頼のある不動産業者を斡旋している。アルバイトについては、許可制をとっており就業先や勤務時間等の確認や指導もしている。	
今後の課題とその解決方法	防災については、地震や火事等に備え学生、教職員の防災意識を高める必要がある。また、一人暮らしの学生においては、日頃から防災に関するアドバイスをしていく必要がある。	
参考資料	防災管理点検記録、学生寮案内パンフレット、学生アルバイト届	

E、学修成果		評価点
E-1	就職率の向上、退学率の低減が図られているか	4
E-2	卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか	4

E-1		評価点
現状認知・評価等 とその根拠	就職率の向上、退学率の低減が図られているか	4
	就職活動の前年時に意識アンケートを詳しくとり、希望の把握とともに個別に抱かえる悩みや課題点を早期につかんでいる。全体でのガイダンス実施後は、個別面談を重視し、一人ひとりに応じた指導を充実。キャリアサポートに熟知した職員が担当している。求人増のために楽器業界のみならず音楽サービス分野での求人獲得のために企業訪問や案内物の発送でこれを促進している。	
今後の課題とその解決方法	学業不振者や生活素行不振者を早急に見つけ出し、担任が面談するとともに学科長から教務課長へと報告され、その原因を特定し解決に導くなどの対策をとっている。場合によっては保護者に連絡を行い来校をしていただき三者懇談を実施することもある。さらに、入学前の進学意識についても入学広報担当職員から担任に伝えられ、教職員間での情報共有を図り対応の充実度をあげている。	
	就職実績一覧（当該年度のもの）	
参考資料		
E-2	卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか	
現状認知・評価等 とその根拠	卒業後1年経過時にアンケート調査を行い、仕事内容や仕事状況、さらにはそれに対する自分自身の不足事項が何かあるかを振り返り、本校に知らせてくるように働きかけている。カリキュラムや指導方法の改善にこれを生かしている。さらに、卒業生本人に対するキャリア指導やアドバイスをするとともに特に技術的な必要事項についてはこれをテーマとして卒業生研修を実施してフォローに努めている。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	なし。	

F、生徒・学生支援		評価点
F-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
F-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

F-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	評価点
現状認知・評価等 とその根拠	進路指導に関する年間計画を立て、1年次の秋季から学生指導を順次実施。就職に対する意識付けのガイダンスから	4
	始めOB・OG講話の実施や企業オーナーを招いての講話を実施して自らのキャリア形成プランを考える機会を多く	
	持っている。個別面談や任意の面談対策講習への参加、履歴書指導なども順次行い、希望職種への就職を目指してい	
	る。同時に進路指導部スタッフによる企業訪問を密に行い、情報収集に努めて求人増につなげるとともに、学内外で の企業説明会の実施を促して、学生とオーナーや人事担当者とを引き合わせる場の提供を行っている。	
今後の課題とその 解決方法		
参考資料	就職支援室年間スケジュール	
F-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 とその根拠	AO入試にエントリーして早期に入学許可となる生徒に対しては音楽や楽器、基礎学力確認のための課題	4
	を与え、入学前に提出させてチェックする体制作りをつくりあげている。これにより入学前教育を	
	キャリアを見つめる機会として提供し、職業意識を早期に立ててキャリア教育につなげるようにしてい る。	
今後の課題とその 解決方法	入学予定者の学力レベルや音楽知識の差があるので、入学前教育について質量パターンをいくつか作り 個人のレベルに応じて無理なく望める入学前教育にしていく必要がある。	
参考資料	入学前提出物	

G、教育環境		評価点
G-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
G-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4

G-1		評価点
現状認知・評価等 と その根拠	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
	教育目標の効果的な達成を念頭に置き、学校内の設備の巡回を行い安全な教育環境を整備している。	
	今年度の9月より新館を建築し教育環境を整えた。	
平成31年の4月には、本部棟が完成しさらに教育環境を充実させていく計画である。		
今後の課題とその 解決方法	施設設備の老朽化が目立つとともに学生数の増加に対応できるような校舎の増築が必要である。	
参考資料	学内巡回日誌	
	新本部棟建築計画	
G-2		評価点
現状認知・評価等 と その根拠	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
	学外の実習施設として、湯の山研修センターを構え毎年、学生が集団行動の大切さ、技術習得を行っている。インターンシップ実習においては、ピアノ調律科が名古屋経済大学の協力を得てインターンを開始した	
	海外研修では音楽サービス創造学科が今年度よりアメリカ研修、弦楽器製作科ギタークラフトコースが中国研修、バイオリン修理&製作コースがイタリアのクレモナへ海外研修を実施している。	
今後の課題とその 解決方法	湯の山研修センターの活用方法の充実、インターンシップ実習の積極的参加。海外研修においては新鮮な工夫を考える必要がある。	
参考資料	湯の山合宿研修資料、インターンシップ実習記録報告書、海外研修資料報告書。	

H、生徒・学生募集		評価点
H-1	高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	4
H-2	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4

H-1	高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	直接高等学校訪問を行い情報提供に努めている。入学者数の比重の大きい中部、関西、関東地区が中心である。2か月に1回「中部楽器通信」というDMも前述以上の高等学校にも発信している。	4
	あと、高等学校へ情報提供をしている複数業者のメディアにも参画している。	
	機能的価値を理解して頂けないといけないタイプの専門学校であり、高等学校現場で直接、高校生と話ができる場を提供して頂ける業者とのパートナーシップを強化していく必要がある。	
参考資料		
H-2	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	定量的な項目（名称、数、率）などはHP、リーフレット等、並びに各業者のWEB、紙メディア等に正確に記載されている。数字等は世間に公表できるだけの実績を日々の努力で作りこんでいるので問題はない。その情報を入手した方がどう思っているのかを追求していく必要がある。	4
	なぜそうなっているのか、またそれによってどういう効用が創出されるのか等、に関する「ものがたり」を磨き、説いていけるような仕組みを整備していく必要がある。	
	参考資料	

I、財務		評価点
I-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
I-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4

I-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	中長期的な財務基盤の安定においては、本法人の正味財産及び基本金ともに増加している。	4
	監査体制については、監事による監査が確立されており理事会・評議員会で監査報告されている。	
	財務情報の公開については、HP上に掲載し、学生、保護者はもとより一般に情報の公開・発信を行っている。	
今後の課題とその 解決方法	財政基盤の安定については、18歳人口の減少がより顕著になる平成30年度以降も安定した学生数の確保が不可欠である。	
参考資料	決算書	
I-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	予算については、予算編成における基本方針に基づき編成され、評議員会・理事会の承認を得て決定されている。	4
	また、会計については「学校法人会計基準」に従って適正な会計処理をしている。	
今後の課題とその 解決方法	予算を編成するにあたり、学生数の確保が大きな分岐点になる。今後も安定した予算を編成するためには長期的視野にたち、学生募集を行っていく必要がある。	
参考資料	予算書	

J、法令等の遵守		評価点
J-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
J-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4

J-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	法令や設置基準の遵守については、学校法人として適切に実施されている。	4
	関係省庁への報告においても適切に実施されている。	
今後の課題とその 解決方法	コンプライアンス（法令遵守）の充実を図る時期にきており、全職員の意識向上が更に必要となる。	
参考資料	各種規程等	
J-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	個人情報保護、特定個人情報保護については、学内で「個人情報保護規程」「特定個人情報に関する 取扱い規程」が定められており、学外への個人情報の流出を予防している。なお、学生に対しては入学時 のオリエンテーション等で説明をしている。	4
今後の課題とその 解決方法	学生については、入学時のオリエンテーションでも説明はするが、「パソコン」「携帯電話」を使って の情報流出を防止するために各担任が再度徹底する必要がある。	
参考資料	個人情報保護法に関する規程等	

K、社会貢献・地域貢献		評価点
K-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
K-2	生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

K-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	毎年秋に実施している学園祭においては、様々な企画に地域の方々にも来校、参加をいただいております。社会 地域の交流ができています。昭和区役所とは地域活性に向けての協力提携を結ぶことができました。	4
今後の課題とその 解決方法	従来の活動を継続しながら学校の持つ知的財産を活用して社会・地域への積極的な参加をしていく情報 発信が必要である。	
参考資料	学園祭資料、昭和区民祭り資料	4
	昭和区役所との提携書	
K-2	生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	対外窓口として「学生ボランティア委員会」（教員）を設置し、諸団体からのボランティアの申し込み、 受付を行っている。老人福祉施設、養護施設を中心とした演奏会、ピアノ調律等に取り組んでいる。 また、国際交流、社会福祉支援、地域貢献活動等の様々な分野で活動をしている。	4
今後の課題とその 解決方法	今後は学校の持つ知的財産を活用し、従来の活動分野を継続しながらより積極的なボランティア活動 を支援していく必要がある。	
参考資料	ボランティア活動記録	4

L、国際交流		評価点
L-1	留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	3
L-2	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

L-1	留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	本校は1993年より中国の南京芸術学院と友好提携をしている実績があるが、具体的な留学生受け入れ体制は行っておらず、あくまで留学生自身の希望によるところが大きい。日本人の入試と同様の入試で選抜してる。	3
	ただし、各日本語学校への学校情報提供は年々少しづつ増やしてきている。	
	今後の課題とその解決方法	
参考資料		
L-2	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	海外就職を果たす日本人の学生は皆無に等しく、留学生についても日本国内での就職を希望する者がほとんどであるため、学習成果の評価は国内に限られる。ただし、国連WAFUNIFの日本唯一の認定校になっていることから、国外での評価づけの機会を得ている。	3
	今後の課題とその解決方法	
参考資料		